



部長挨拶

商学部 3 年

秋元 啓介

研究誌の方を手にとって頂き、誠にありがとうございます。

今年はコロナ禍のため、旅行を軸として活動している弊会の活動は大幅に制限されました。この研究においても、対面で集まって話し合いを行うということができませんでした。そこで、例年だと部員全員で1つのテーマを決めて行っているところを、今年は全体で大きな1つのトピックを決め、それに沿って各自でテーマを立てるという形で進めました。そして、そのトピックは表紙にもありますように、「コロナと鉄道」です。

弊会はコロナによって大きな影響を受けましたが、それは鉄道会社にとっても同じです。外出自粛で乗客は急減し、業績は大きく悪化。体力のない鉄道会社は減便を迫られました。テレワークが普及し、コロナが完全に終息したとしても、利用者は以前の水準にはもはや戻らないでしょう。そうした中で、鉄道会社は変わろうとしています。例えば、空席の多い新幹線を活用して、新鮮な水産品を首都圏に運ぶといった取り組みが行われています。また多くの鉄道会社は、ライフスタイルの変化に合わせて終電を繰り上げ、従来からの課題であった保守などの作業員の労働環境改善に乗り出しました。こうした鉄道会社の取り組みを見ていると、弊会もこのまま『活動できない』とだけ嘆いて、何もしないのはどうかとも思われます。この状況でも何かできることはないか、あるいはこれを機に重い腰をあげて変化していくべきではないか…。

本研究は基本的に、コロナ禍における鉄道の現状分析で留まっています。本研究によって鉄道の現状に対する理解が深まり、鉄道会社の今後の施策に向けた取り組みを見たり、鉄道の今後あるべき姿を考えたりする際の役に立てれば、私としては幸いです。どうぞ最後までお楽しみください。

一橋大学鉄道研究会第 58 代部長 秋元 啓介